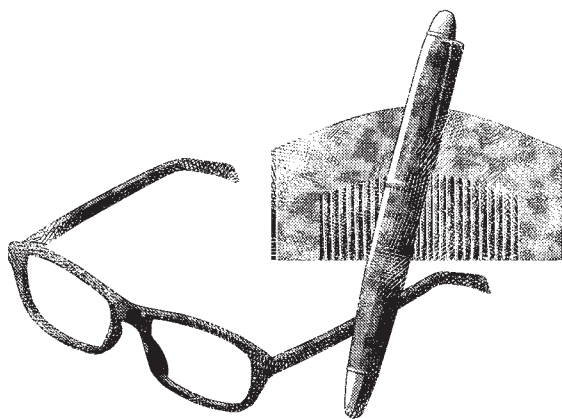


第3章

日清戦争勃発く台湾進出と
鈴木商店・岩井商店によるセルロイドの国産化



Hassojitz

総合商社 双日
未来を創造した先駆者たち



後藤新平、セルロイド・薄荷（ハッカ）
～台湾進出のキーマンと製造事業進出時の商品



金子直吉は
鈴木商店入店以来
クスノキ(楠)から採れる
樟脳にこだわっていた

故郷の高知だけでなく
全国から樟脳を
買い集め外国商館に
販売をしていた

龍馬さんの海援隊も
樟脳で儲けて軍艦夕顔丸を
買ったがやき
弥太郎さんも土佐藩と
樟脳やりよったき



土佐っぼは
やっぱし樟脳じゃ

樟脳は当時
防虫剤・医薬・香料など
に使われていたが

爆薬原料
そしてセルロイドの
原料として需要が
高まっていた



クスノキは
東アジアの一部に
しか自生せず

なかでも
台湾が一大産地と
なっていた

明治二七（一八九四）年
日清戦争が勃発

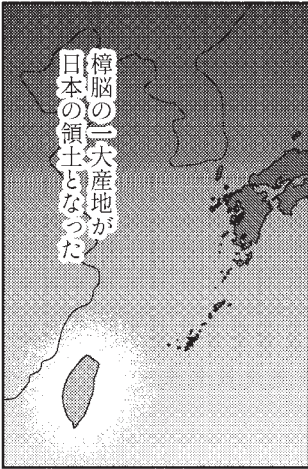
翌年
日本の勝利に終わり
下関条約が締結される

くっ
わが大清帝国が
小国に敗れる
とは……

北洋大臣直隸総督
李鴻章



樟脳の一大産地が
日本の領土となった

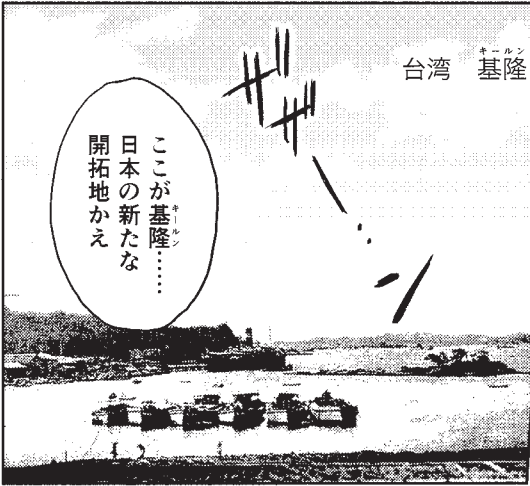


台湾は樟脳の
一大産地

さっそく
調査じゃ！

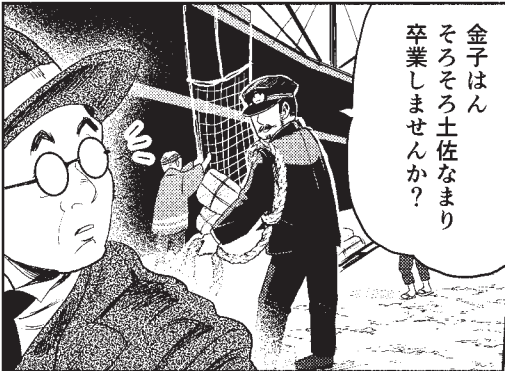
台湾 基隆

ここが基隆……
日本の新たな
開拓地かえ

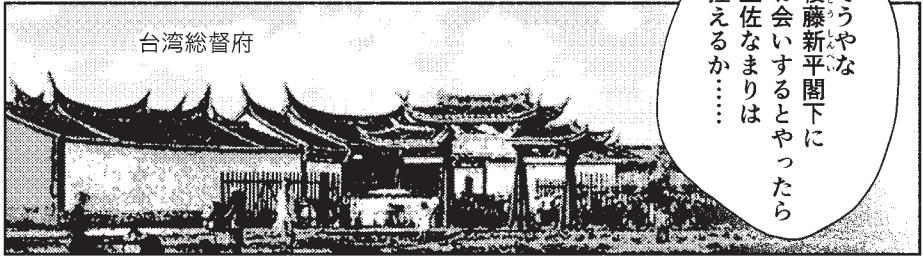


金子直吉は
神戸の後藤回漕店
そして樟脳業者と協力
台湾調査に乗り出す

金子はん
そろそろ土佐なまり
卒業しませんか？



台湾総督府



「そうやな
後藤新平閣下に
お会いするとやったら
土佐なまりは
控えるか……」



「なんだ
わざわざ神戸から
それだけ
言いに来たのか？」

台湾総督府民政長官
ごとうしんぺい
後藤新平



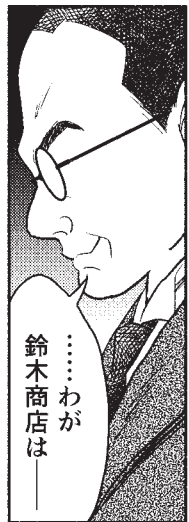
閣下
今後の台湾開発には
莫大な資金が必要で
反対派もいますが
樟脳は閣下の構想の通り
専売制にすべきです



「なんだと？
樟脳油は
生成のときに出る
副産物だろう
あんなものは
捨てているはずだ」



「樟脳油を
引き取りますよ」



「……わが
鈴木商店は」

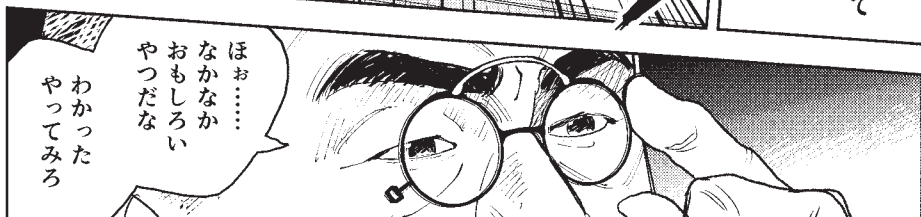
そこが
鈴木商店流
でして……

宝にして
みせますぞ



われわれは
台湾で捨てられて
いる樟脳油を
神戸で再製樟脳
として

ほお……
なかなか
おもしろい
やつだな
わかった
やってみろ



明治三三(一九〇〇)年
鈴木商店は神戸で
樟脳工場(現・日本精化)
を立ち上げる。

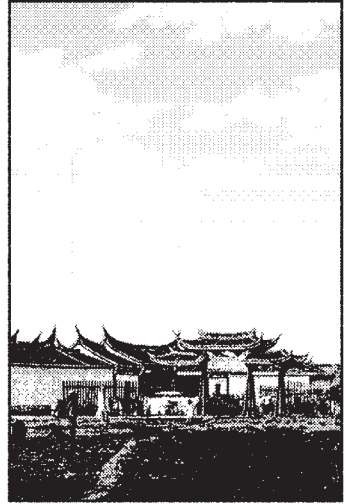
これが鈴木商店で
初めての製造事業じゃ

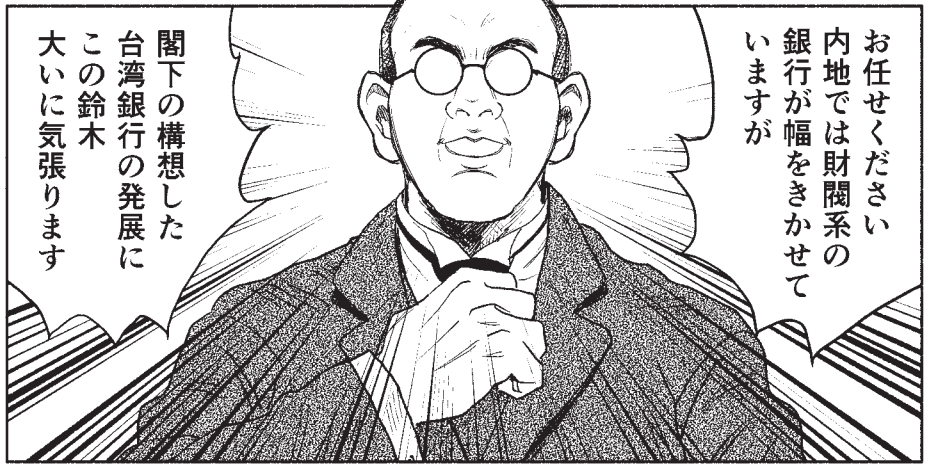


これからは
自らモノをつくって
この国を豊かにする

わしが鈴木の名を高め
日本を変えてやる

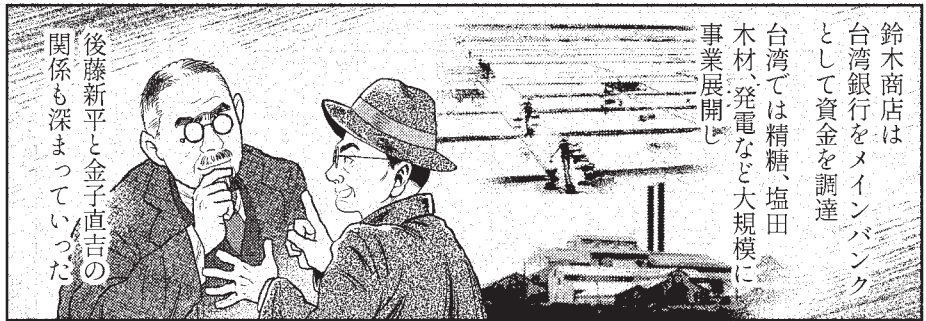
そして樟脳は
神戸の有力な輸出品
にまで成長した





お任せください
内地では財関係の
銀行が幅をきかせて
います

閣下の構想した
台湾銀行の発展に
この鈴木
大いに気張ります

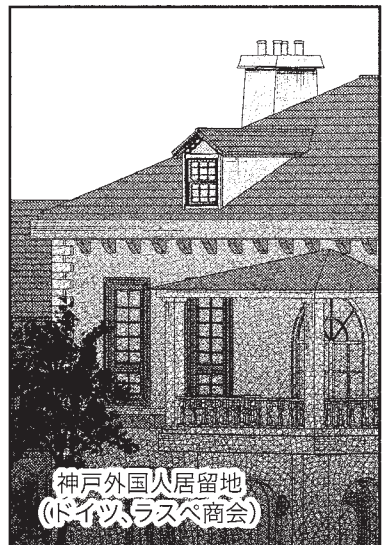


鈴木商店は
台湾銀行をメインバンク
として資金を調達
台湾では精糖、塩田
木材、発電など大規模に
事業展開し

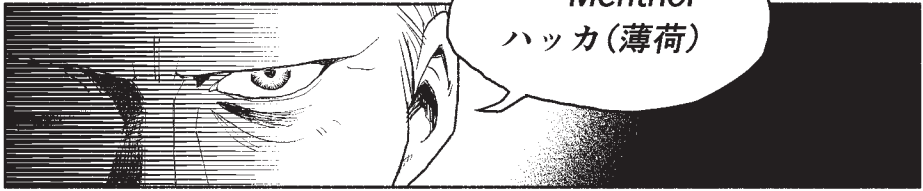
後藤新平と金子直吉の
関係も深まっていた



頼む
なんでもいいから
欲しいモノを
言ってくれ



神戸外国人居留地
(ドイツ人商會)

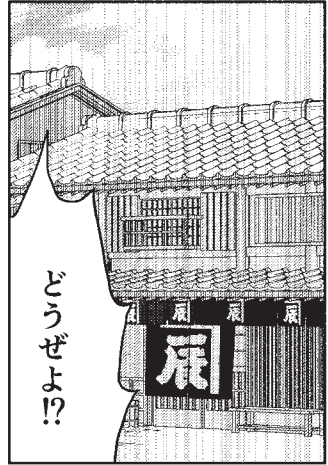


……Menthol
ハッカ(薄荷)

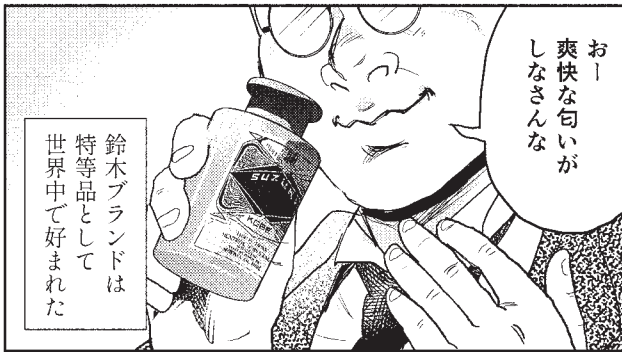


はい！
ハッカはアメリカの中部と
日本の北海道・三陸地方
でしか採れないそうです！

よし！
全国からハッカの
葉をかき集めろ
そして神戸で
良質なハッカ油
にして世界中に
売っちゃろう！

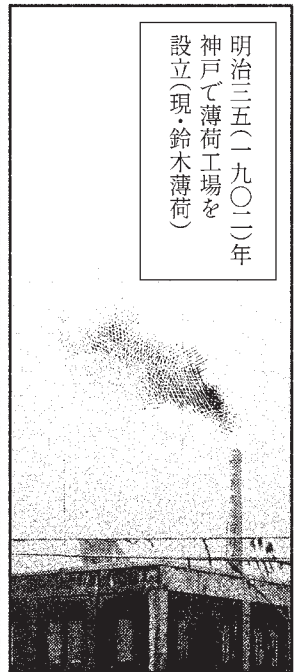


どうぞよ！

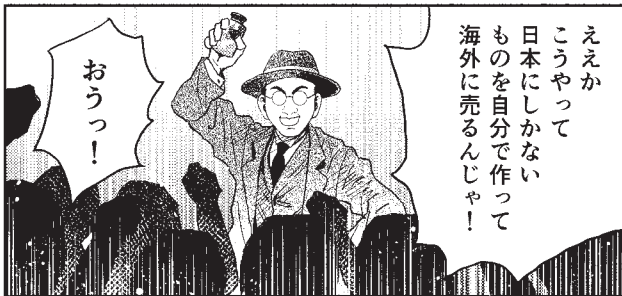


おー
爽快な匂いが
しなさんな

鈴木ブランドは
特等品として
世界中で好まれた



明治三五(一九〇二年)
神戸で薄荷工場を
設立(現・鈴木薄荷)



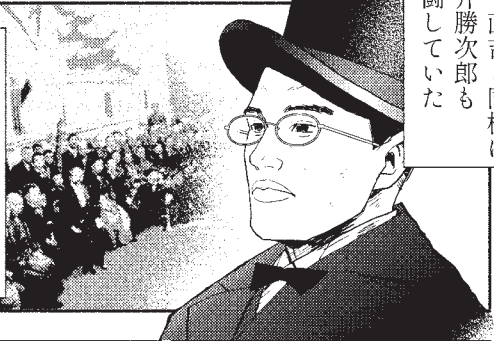
ええか
こうやって
日本にしかない
ものを自分で作って
海外に売るんじゃ！

おうっ！

金子直吉と同様に
岩井勝次郎も
奮闘していた



明治三五（一九〇二）年
には北浜に
本社ビルを構えた



やっぱり
海外の商社
との直接取引
はええな

そうですね
商館を
通してたら
とてもこうは
いきません

勝次郎社長！
面白い話
聞いてきましたで



岩井商店はいち早く
自転車を入力し
実用化したとされる



岩井商店は
関東では
セルロイド生地
の大半を扱っていた

それはウチがやる
べきやな
原料の樟脳は
日本や台湾にある
せやのに海外から
製品を輸入
しとるのが現状や
全部自前で
できるようになったら
大きな進歩になる



おう
なんや

社内の英語教師
からの紹介で
英国の会社が日本で
セルロイドを
つくらないかと
提案してきました



セルロイド工業こそ
将来の日本を繁栄
させる有力な方法
この機を逃すな！
台湾の専売局に原料の
確保を打診するんや

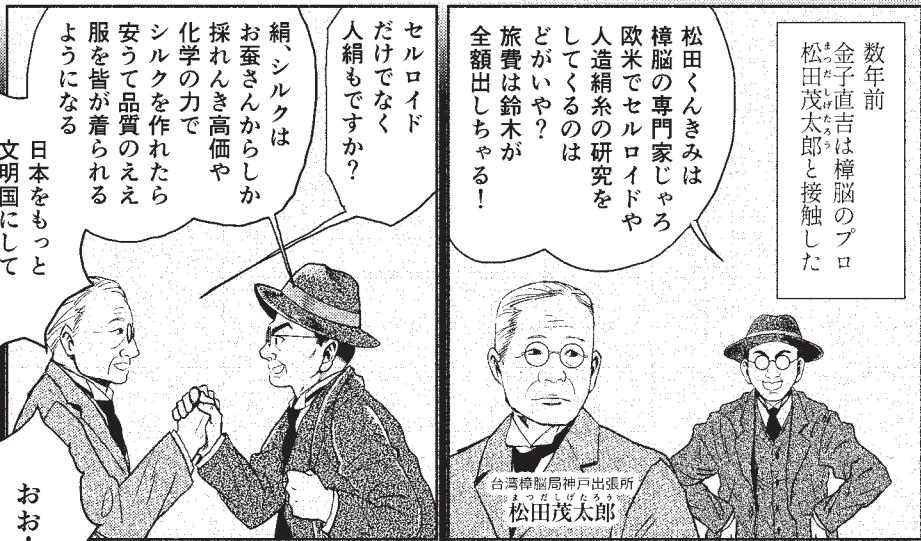
ここで
金子直吉と
岩井勝次郎が
交わる



勝次郎社長!!

台湾の樟脳
鈴木に
やられました
……!!

なにい
どうい
う事だ!?



数年前
金子直吉は樟脳のプロ
松田茂太郎と接触した

松田くんきみは
樟脳の専門家じゃろ
欧米でセルロイドや
人造絹糸の研究を
してくるのは
どがいや?
旅費は鈴木が
全額出しちやる!

セルロイド
だけでなく
人絹もですか?

絹、シルクは
お蚕さんからしか
採れんき高価や
化学の力で
シルクを作れたら
安うて品質のええ
服を皆が着られる
ようになる

日本をもっと
文明国にして
いこうやないか!

おお!

台湾樟脳局神戸出張所
まつだしげたろう
松田茂太郎

よっしゃ
研究が成功したら
樟脳は鈴木商店に
優先的に回して
もらうよう後藤さん
に言うておく

金子さんは
商機を逃さない
怖いお人だ

さすがは鈴木商店
さすがは
金子直吉さんや

どないします
諦めますか？

いや
セルロイド事業は
巨額の資本が必要や

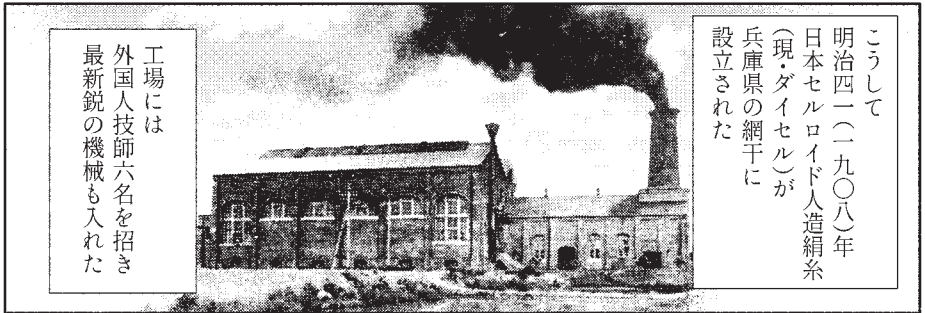
……と
いうようなことが
あったようで

鈴木といえども
一社では無理やろう
いっそ三菱も
巻き込んで
大がかりにやら
ないといかん！

そうして
交渉の場が
設けられた

三社で手を組んで
ぜひとも事業を
成功させたい

……条件がある
セルロイドだけのうて
樟脳から人絹をつくることも
会社の目的にしてくれ

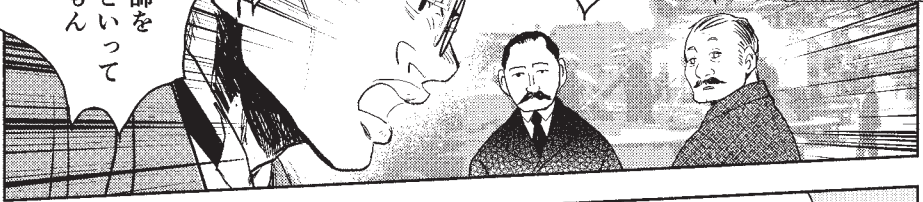


セルロイドに賭ける勝次郎は座視しなかった

ええい
経営陣も外国人も全員クビだ！
岩井商店から人を送って日本人だけで経営を立て直す！

そもそも工業いうんは経営者と技術者と職工この三者の息がぴったりと合わんとあかん

外国人の技師を雇ったからといってうまくいくもんじゃない！



勝次郎は幹部の西宗茂二を工場長として派遣

工場再建を引き受けてくれ

ただし狭い日本国内だけを相手にしていたんでは大きな発展は望めへん
どんな苦勞があろうとも海外に輸出することを重点においてくれ

わかりました
微力を尽くします！

夜中は電燈を消せ
節約した分利益が大きくなる

岩井中心の経営再建が功を奏し日本セルロイド人造絹糸は一気に軌道に乗る

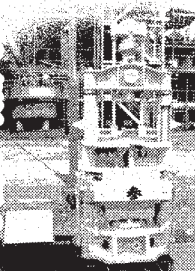


岩井商店は製品の輸出も手かげKB（加賀谷文助）岩井文助商店の屋号）マークの製品は主要輸出品として世界中で販売された



現在のダイセル絹干工場には
同社創業90周年を記念して
設立されたモニュメントがある

「明治四十一年（一九〇八年）この絹干の地に、三菱・岩井商店・鈴木商店の出資により、日本セルロイド人造絹糸株式会社設立された。我が国セルロイド、ひいては化学工業の本格的工業化時代のさきがけをなすものであり、当地は、当社並びに日本のものづくりの原点ともいえる場所である。」





日本セルロイド人造絹糸
(現・ダイセル)工務部長
にしだのりたろう
西田博太郎

おい、西田工務部長
近藤さんの手前
大げな声ではいえんが
人絹の製造研究を
進めといてくれ

金子直吉の
人絹への情熱は
半端ではなかった



さすがは岩井商店や
やけんどわしは
人絹を諦められん

昔から絹の洋服を
着たいちよいう
庶民の夢
「お蚕ぐるみの夢」を
化学の力で
叶えたいんじや……



神戸樟脳専売局の技師

おいっ、君
渡欧資金は
鈴木が出すから
人絹の研究を
やってくれ

えっ……はい！
わかりました



そんな折
ある人物が
金子直吉の
もとに訪れる

おう
おう
よう来た
まあ座って

彼は
自分を訪ねて
きた人物とは
誰でも面会
したという



神戸専売局の
秦逸三と
います

東京帝国大学応用化学科を
出て樟脳専売局や神戸税関に
勤めましたが自分の能力を
活かして何かやってみたい

何かおもしろい仕事は
ありませんか？



……では
人造絹糸を研究して
みてはどうじゃ？

この秦との出会いが
人絹事業を大きく
推し進めることになる

しかし、事業化
までにはまだ
さまざまな困難が
待ち受けていた

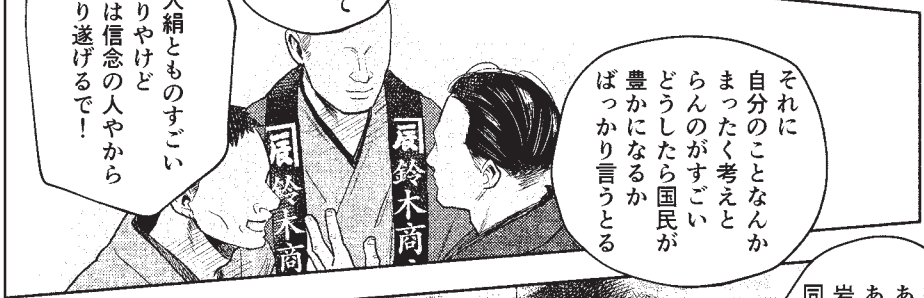
金子さんの
ところには
いろんな人が
こられますなあ



金子はんに会う
たら皆心を奪われて
しまうんじゃない
あの人は稀代の
人たらし

人絹、人絹とものすごい
こだわりやけど
あの人は信念の人やから
絶対やり遂げるで！

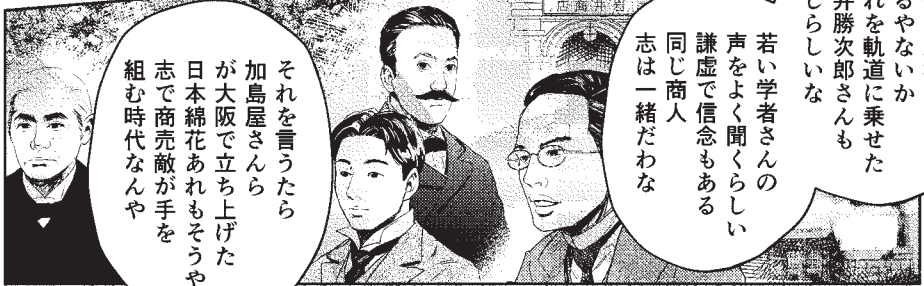
それに
自分のことなんか
まったく考えと
らんのがすごい
どうしたら国民が
豊かになるか
ばっかり言うとする



網干の工場
あるやないか
あれを軌道に乗せた
岩井勝次郎さんも
同じらしいな

若い学者さんの
声をよく聞けらしい
謙虚で信念もある
同じ商人
志は一緒だわな

それを言うたら
加島屋さんら
が大阪で立ち上げた
日本綿花あれもそうや
志で商売敵が手を
組む時代なんや



ワシらはいま
新しい時代を
生きとるんやな……

日本における
産業革命は
苦難を伴いながら
も続いていく

